

学びに向かう力を育む授業づくり

～新聞に親しみをもち、進んで学び、発信する生徒の育成～

南魚沼市立大和中学校

1 学校の概要

南魚沼市立大和中学校（山崎喜久治校長，生徒数 347 名）は，南魚沼市北端に位置し，霊峰八海山からなる魚沼三山と清流魚野川が側に流れる自然豊かな地域にある中学校である。一昨年に創立五十周年を迎えた。

2022 年度の新学習指導要領の全面実施に向け，今年度は「笑顔咲く大和中学校」を経営スローガンとして，学校経営を進めてきた。教育目標に「自主独立・敬愛互譲」を掲げ，全職員で生徒理解に努め，心の通い合う人間関係を基盤とした適切な指導のもと，生徒の主体性を生かした生徒会活動や部活動，学校行事などに取り組んでいる。今年度は委員会活動において，「日常活動の質の向上」を目指してリーダーを中心に日常活動の「計画，実行，評価，改善」の P D C A サイクルに取り組んだ。運動会では，全校での選手宣誓，全校応援など全員が主役の運動会を創り上げた。部活動も盛んに活動している。特に，野球部は昨年 10 月に行われた県新人大会において優勝し，今年 3 月静岡県で開催された春季全国大会出場を果たした。



2 NIE 実践のねらい

本校では，昨年度までの 3 年間で「生徒の主体性・協働性を育む指導方法の工夫」とし，日々の授業の中で主体性・協働性を育み，全ての教育活動において自ら考え，判断し，行動していく力を伸ばすことを目指した研修を進めてきた。日常において，小集団での学習場面では，仲間と協力して課題を解決したり，他の生徒の意見を聞いて自分の考えを深めたり広げたりできる生徒が増えてきた。そこで，研究主題を今年度から「学びに向かう力を育む授業づくり～課題提示と学習形態の工夫をとおして～」とし，「学ぶこと」の意味付けをし，生徒の学ぶ意欲をより一層高めるために「課題提示」と「学習形態」の 2 点を工夫することを重点として，「一教科一実践」と称した授業改善研修を進めてきた。

NIE 推進にあたり，新聞を活用しての学習課題の提示や，授業形態・学習活動を取り入れ，自分の意見をもち，互いに伝え合う活動を展開することを目指した。新聞活用を通して，学習内容との関連性をもたせたり，社会でのできごとを自分事として捉えさせたりすることで，生徒の学ぶ意欲を高めるように授業改革を行った。

1 年次の今年度は，生徒に新聞に親しみをもってもらうため，新聞を気軽に読むことの

できる環境の整備や委員会，部活動と連携したスクラップ作成活動を取り入れ，新聞を身近に感じさせることを重点に置いた。そして，来年度の2年次の実践を見据えて，職員全体でNIEについて理解を深めるための研修や，公開授業研修を計画した。

3 本年度実践の概要

(1) NIE 活動やNIEに関連する職員研修，研究授業実践

時 期	実施内容
4 月	○ NIE 実践計画提案
6 月 1 日	○ 新聞購読開始（日報，朝日，日経） ○ スクラップ活動開始（毎月 1 回）
8 月 1～2 日 8 月 21 日	○ 第 24 回 NIE 全国大会（宇都宮大会）参加 ○ NIE 職員研修① 指導者 十日町市立南中学校 校長 若林 靖人 様
10 月 23 日	○ いじめ見逃しゼロスクール集会
11 月 6 日	○ まとめの校内授業研修 指導者 十日町市立南中学校 校長 若林 靖人 様
11 月 14 日	○ NIE 研究発表会参加（胎内市立中条中学校）
2 月	○ NIE 校内研修②（1年次の実践の反省とまとめ）
3 月	○ 2年次実践の1次提案

(2) NIE コーナーの整備（通年）

新聞を活用しやすい環境づくりとして，「NIE コーナー」を整備した。NIE コーナーでは次のような工夫を取り入れた。

- 校舎内で通行量の多い廊下にNIEコーナーを設置する。
- 生徒、教職員、来校者が自由に新聞記事を閲覧できる。
- 最新の2日分の新聞記事を読みやすいように設置する。
- テーブル下に新聞記事のバックナンバーをストックする。
- 委員会、部活動ごとで作成した新聞スクラップを掲示する。



(3) スクラップ製作活動（月1回）

委員会，部活動ごとに新聞記事のスクラップの作成を行った。それぞれの委員会，部活動に関連した記事を選ぶことを通して，日頃から新聞に目を通す生徒が多くなった。また，

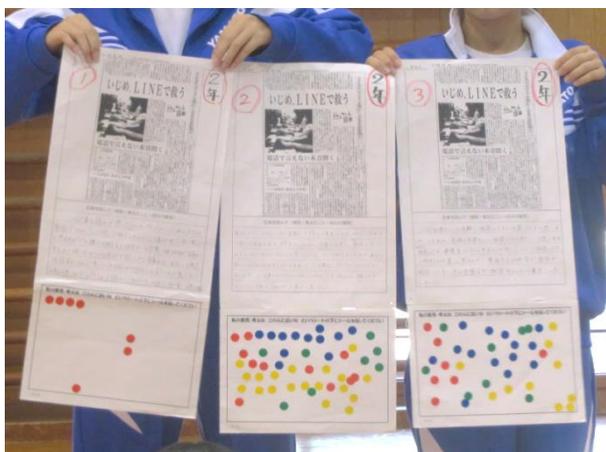


作成時に自然と新聞記事を比較しながら会話が生まれ、新聞記事に対する理解を深める様子があった。

また、あまり新聞を読まない生徒もスクラップでは立ち止まって見る様子が見られた。

(4) 新聞を活用した小中連携活動

大和中学校区では、毎年「いじめ見逃しゼロスクール集会」を中学校区の小学6年生と中学生が一緒になって交流活動を行っている。今年度は、生徒会が中心となっていじめに関する新聞記事を集め、それについて中学生と小学生が小グループとなって一緒に考える活動を行った。新聞記事は、中学生や高校生が書いた記事を3種類使った。全学年の廊下に同じ記事を掲示し、自分が共感できる記事にシールを貼った。シールを貼ることによって視覚的に学年によって意見に差があることを感じることができ、他者の考えを理解することにつながった。



(5) 校内研修

① 新聞記事活用に関する校内研修（令和元年8月21日）

ア 研修内容

十日町市立南中学校長の若林靖人様を講師にお招きし、「新聞活用のための基礎研修」と題して、職員研修を行った。どのように新聞を教育活動に取り入れていくかを理解しようと企画したものである。研修では、NIEの基礎的な内容から実例を踏まえた演習など、新聞を教育活動に取り入れることの良さを知ることができる、学びの多い研修だった。

イ 研修の成果

参加した職員の多くが「新聞を読む機会を増やそう」や「授業で試してみよう」など前向きな声を聞くことができたり、新聞の特性や授業への取り入れ方についての理解を深めたりすることができた。

② NIEまとめの校内授業研修（令和元年11月6日）

ア 研修内容

1年次のまとめの校内授業研修では、社会科第1学年の公開授業を行った。授業内容については、実践例で後述する。

協議会では、授業での新聞活用の有効性について協議し、来年度の実践へ向けて職員間で意見交換を行った。また、NIEアドバイザーである十日町市立南中学校長の若林靖人様から、授業及び来年度へ向けての全体指導をいただいた。



【協議会の様子】

イ 研修の成果

公開授業では、新聞記事を活用した授業の実際を全職員で参観することでNIE推進に向けて職員全体の意識を高めることができた。

若林靖人様からは、授業や単元構成での新聞活用のポイントについて御指導をいただいた。教科のねらいを達成するために新聞を活用すること、根拠に基づく論理的思考を促すことなど、授業で使用した新聞記事を用いながら具体的な方策を示していただき、たいへん参考になる研修会となった。

4 実践例

(1) 社会科 1 学年地理的分野「アフリカ人々の暮らしとその変化」

① 単元の目標

アフリカ州の位置や自然環境、歴史、産業、諸外国との関わりを通して、アフリカ州の地域的特色と現在アフリカ州が抱えている課題、それらを解決するために行われている取組について理解することができる。

② 本時のねらい

日本（先進国）が行っている支援が、アフリカ諸国の自立を促すための支援であることを理解し、新聞記事をもとに日本が行うべき支援について優先順位を決め、その理由を考え出すことができる。

③ 本時の展開

時間	学習内容	学習活動
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。	<u>農業</u> ：農業の技術を教える，伝える <u>教育</u> ：学校の建設，文房具などを送る <u>医療</u> ：伝染病予防，病院建設 <u>インフラ整備</u> ：上下水道の整備，道路・港の建設など
展開 35分	主発問：アフリカが経済発展していくために、日本が優先して行う支援は何か良いか考えよう。	

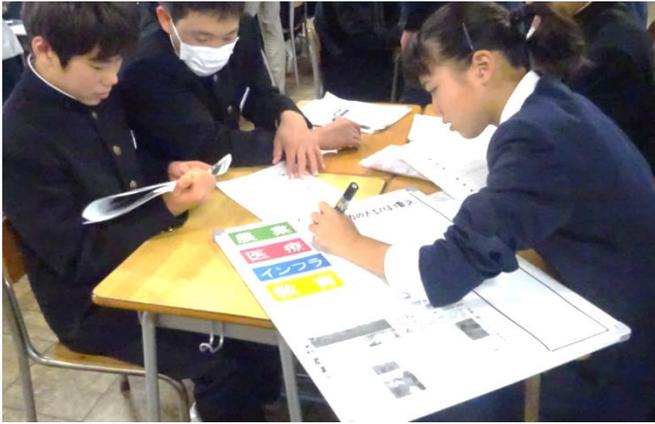
	<p>2 個人で支援の順序を考える。</p> <p>3 グループで支援の順序をつけ、理由を考える。</p> <p>4 他班の発表を聞き、考えを深める。</p>	<p>○ワークシート⑤に記入する。</p> <p>(1) ワークシートに支援の順序を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育→医療→インフラ→農業 ・インフラ→農業→医療→教育 <p>(2) 順序1位の項目の選んだ理由（根拠）を考え、記入する。</p> <p>○グループで相談しながら支援の順序をつける。</p> <p>(1) ホワイトボードのマグネットを動かす。</p> <p>(2) 順序1位の項目の選んだ理由（根拠）を考え、記入する。</p> <p>(3) 考えの根拠となった新聞記事を貼る。</p> <p>○各班のホワイトボードを黒板に貼り、支援の順序、理由を発表する。</p> <p>○発表を聴き、考えを深める。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>5 発表を聴いた後、改めて支援の順序と理由を考える。</p>	<p>○自分以外の様々な考えを比較し、改めて自分の考えをワークシートに記入する。</p>

④ 授業の実際

本單元では、アフリカ州の現状と日本との関わりについて知り、これからの未来もどのようにアフリカの国々と関わっていくかを生徒同士で話し合わせ、考えを深めることをねらいとした。そのための手立てとして、新聞記事からアフリカにはどのような課題があり、それに対して日本がどのような支援をしているかを知り、どんな支援をすればアフリカの国々が外国の支援を受けずに自立した国に近づくかを考えさせた。グループ活動の場面では、様々な見方や考え方があることを考えさせるために、意図的に同じグループに異なる意見をもつ生徒がいるように組織し、他のグループが一目で意見がわかるように色つきのマグネットシートとホワイトボードを用いて話し合い活動が進むように工夫をした。



【授業で活用した新聞記事の一例】



上の写真は、授業で活用したホワイトボードである。意見が書かれたマグネットシートの順序を、マグネットを縦一列に並べるだけでなく、横に並べるなど意見交換しながら入れ替え、その根拠となる新聞記事を貼り、意見をまとめた。

④ 生徒の振り返り（一部抜粋）

- 自分が思っている考えと違う意見があって、こんな意見があるんだなと知ることができて良かった。4つの新聞記事を読んで、こんなことが起こっていたんだと初めて知ることができた。
- アフリカには色々な課題があって、私は食料支援が1番大事だと思ったけど、話し合いでは医療支援が1番になった。そういう考えもあるんだなと思った。
- 話し合いの前は教育支援が大事だと思ったけど、同じグループの人は意見が違っていておもしろかった。でも、自分は今も大事だけどこれからの子どもたちのため教育が大事だと改めて思った。

5 成果と課題

NIE 指定校として1年目を終え、様々な取り組みを通じて生徒は少しずつ新聞を読むことに親しみをもち始めた印象である。授業で繰り返し新聞を活用したことで、新聞の読み方や情報の抜き出し方などができるようになってきた。そのこともあり、休み時間に生徒同士で新聞を開いて眺める様子も見られるようになった。生徒は新聞活用を通して、自己の考えを深め、新聞記事を根拠として意見を考えることができるようになった。新聞を読むようになり始めたことで、世の中の動きや社会問題にも興味・関心を抱くようになり、それを授業に取り入れたことで「主体的・対話的で深い学び」につながっていたと考えられる。

一方、2年次へ向けた課題として、NIE コーナーの改善と全校体制での新聞活用の取組が挙げられる。来年度は今年度よりもさらに多くの生徒が数多く新聞に触れる機会を作るための改善が必要となる。さらに一部の教科や教員だけでなく、教職員が連携してNIEの推進を進めていく。

(佐藤亮介)